

【年間テーマ：認知症の患者さんの対応について】

平成 28 年 10 月 10 日提出

日付	平成 28 年 10 月 8 日 (土)			
場所	福岡ビル		記録者名：鶴田順子	
出席者 (敬称略)	稲築病院 柳瀬真	北九州津屋崎病院 吉武朋子	新小倉病院 北川文子	北九州古賀病院 鶴田かやの
	永野病院 原野志乃	原土井病院 下木原好美	福岡みらい病院 榑あゆち	福西会南病院 金城洋子
	松尾内科病院 内川貴裕	丸山病院 青丸純代	広橋病院 鶴田順子	
テーマ	徘徊する患者さんへの対応			
結論	患者さんの安全を考え、詰所での見守りやセンサーマット・見守りセンサーを使用することで対応。ぬりえ・カラオケ等の活動や話し相手になることで患者さんの注意を他に向ける。シルバー人材派遣を利用し見守りの強化を図っている病院もある。夜間はスタッフが少ない為、各病院とも対応が難しいとの意見がでた。介護士の勤務時間を見直し、夜間帯のスタッフを確保している病院もあった。			
決定事項	レクリエーション活動を行うことで夜間の安眠をうながす。また話を傾聴し説明をおこなうことで患者さんの欲求を満たし精神の安定を図る。			
備考	次回2月の発表に向けて必要資料等あれば持参する。			
次回討論項目	経管栄養等のチューブの自己抜去に対する工夫			

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@famcf.jp

(FAX.092-691-3961)